

# 防災会からのお知らせ

## 必ず受講しようグリーンシティ救急講習「心肺蘇生法とAED」

グリーンシティ集会所ホールで、心肺蘇生法とAED使用方法の講習を行えるようになりました。

私たちグリーンシティ防災会には、心肺蘇生法を指導できる応急手当普及員が5名と現職の救急救命士さん1名がチャンピオンマップに登録してくれているので可能になりました。

## こんなことが起こったらあなたはどうしますか？

突然、家や会社などで呼吸、脈の無い傷病者が出た場合、最初に発見したあなたが救急車を要請し、到着するまでの約7分間、何もしなければその傷病者が助かる確率は非常に低いのですが、発見後すぐに人工呼吸、心肺蘇生法を実施する事で、脳に酸素が行き社会復帰できる確率が非常に高くなります。

脳が無酸素で生きていられる時間は3～4分、一度ダメージを受けた脳組織は元に戻りません。仮に心臓が動き出しても脳死状態になり社会復帰ができなくなります。

あなたの身の回りから悲しみのある死を少しでも無くせるのは、医師・救急隊員でもありません。あなた一人にかかっているのです。

また心臓マッサージは生きた人間では訓練できません。心臓や内臓を傷つける恐れがあります絶対行なってはいけません。グリーンシティ救急講習で正しい知識と技術を見に付け万が一の事故に備えましょう。

「救急講習」の申込書は後日全戸配布します。多くの方々の参加をお待ちしています。

## 知っていますか、心肺蘇生法が変わりましたよ

1992年に設立された国際蘇生連絡協議会が、各国の蘇生協議会とともに心肺蘇生法に関する国際ガイドラインを2000年に作成しました。

この「ガイドライン2000」により標準的な心肺蘇生法が世界的に普及したことは画期的なことでした。そして、2005年11月28日、アメリカ心臓協会(AHA)とヨーロッパ蘇生協議会(ERC)から同時に5年ぶりに大きな改定となった心肺蘇生法の国際的な「ガイドライン2005」が発表されました。



5月19日の災害図上訓練(DIG)に多数のご参加ありがとうございました。今回参加できなかった方も次回は是非ご参加ください。

# 防災井戸について

防災井戸は当初5月末完成予定でしたが、井戸の周辺整備とあわせて工事をすすめている関係で完成は6月末ごろを目指しています。揚水量については当初の予定以上の水量が汲みだせるということで、災害時の水対策に充分活用できそうです。なお、水質調査も行なう予定です。

詳しくは下記ページからどうぞ

[http://www.greencity.gr.jp/greencity\\_bousaikai/idohori\\_daisakusen/bousai\\_ido\\_1.htm](http://www.greencity.gr.jp/greencity_bousaikai/idohori_daisakusen/bousai_ido_1.htm)

